

第1学年1組 音楽科学習指導案

平成28年 9月26日(月) 第5校時
児童数 19名(男子10名女子 9名)
指導者 織田 澤 絵 里
場 所 1年1組 教室

1 題材名 どれみで うたったり ふいたり しよう

2 題材について

(1) 学習指導要領との関係

本題材では、主に小学校学習指導要領 A 表現 歌唱ア「範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりすること。」歌唱ウ「自分の歌声及び発音に気をつけて歌うこと。」器楽ア「範唱を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏すること。」器楽イ「楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏すること。」器楽ウ「身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。」 B 鑑賞イ「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。」に関連している。

(2) 題材にかかわる児童の実態

音楽に合わせて体を動かしながら拍を感じたり、音楽を通して友達とのかかわりを楽しんだりしている児童が多い。歌唱指導では、歌うことが好きという児童の気持ちを大事にしてきた。その中で、魅力ある歌声で歌ってみたいという意欲を高め、自分の歌声を大切にしたいという歌声に気付いて歌うことを目標としている。しかし、友達に負けまいとして大きな声で歌ったり、リズムや音程があいまいのまま歌ったりする児童が見られる。2学期から指導している鍵盤ハーモニカは、入学前の経験に差が見られる。まずは、楽器に親しみ、息を吹き込む力などをコントロールできるよう指導すると、無理なく自然とタンギングが身に付き始めた。今は、手の形、タンギングを机間指導で行い、自分や友達の音色を聴いて『きれいな音』をみつけている。

(3) 本題材における指導

本題材では、これまでに学習してきた拍の流れやリズムなどに対する感覚を土台にして、新たに鍵盤ハーモニカの基本的な演奏の仕方を身に付ける学習を進めていく。楽器に親しむに当たっては、導入の段階から常に「きれいな音による表現」を心掛けて演奏できるように、「表現の技能」「音色に対する感覚」の両面から学習を進める。また、それと並行して旋律を階名で模唱したり、暗唱したりする活動を通して、音高の違いを感じ取りながら音程感を養う学習も進める。音程に対する感覚は、正しい音程で歌ったりみんなで声を合わせて合唱したりする音楽活動を行ううえで、とても重要な能力の一つである。

本時は、指くぐりや指またぎ、ポジション移動のない、3音(ドレミの音)でできている初歩的な演奏の仕方を身に付けさせる。最後の小節だけは、跳躍進行(ドミド)になっているが、それ以外は順次進行(ドレミ、ミレド)でできているので、繰り返し練習を行い、無理なく演奏できるようにしていく。1年生の児童にとって、薬指と小指は動かすのが難しいので、この教材で親指・人さし指・中指を十分に慣れるようにしたい。また、階名唱の活動を繰り返し行い、子どもたちの音程感覚を着実に育てていくようにしていきたい。

3 研究主題との関わり

本校では、研究主題を「まごころをつくしあい、みんな仲よく、たゆまず学び続ける児童の育成」として研究を進めている。

本時は、人権教育上の視点を「コミュニケーション能力」におき、鍵盤ハーモニカの学習を

通して、お互いのよさを認め合ったり、教え合ったりする中で、意見や気持ちを適切に伝え合い分かり合えるようにしていきたい。

【手立て①】 ペア学習を取り入れる。

自分の鍵盤を友達に聴かせたり、友達の鍵盤を聴いたりする音楽活動を行う。友達と触れ合い、仲よく共に学ぶようにしていく。

【手立て②】 互いのよさを認め合う活動を取り入れる。

教師が具体的に見合ったり聴き合ったりする観点を示し、自分の言葉で友達に伝えられるようにする。また、互いに分かり合えるような声をかけられるようにしていきたい。そのため教師が悪い声かけ例を示し、相手の気持ちを考えた声のかけ方に気付かせたい。

【手立て③】 学び合える活動になるように工夫していきたい。

友達のよさを認めたり、アドバイスをしたりすることで、「自分も、こんな風になれるようになりたい。」「自分も気を付けてやろう。」という気持ちにさせ、自分の音楽技能も高められるようにしていく。

【手立て④】 ワークシートで振り返りを行う。

自分ができるようになったこと、わかったことを振り返らせることで、自己有用感を育むことにつなげていく。

4 題材の目標

- 階名で模唱や暗唱をしたり、まねっこ遊びをしたりして、階名に親しむ。
- 鍵盤ハーモニカの基本的な演奏の仕方を身に付けたり、きれいな音に気付いて聴いたりする。

5 教材（◎は本時で扱う教材）

- 「みつばちの ぼうけん」 橋本祥路 作曲
- 「たのしく ふこう」 鹿谷美緒子 作詞・作曲
- 「どんぐりさんの おうち」 久野静夫 作詞 / 市川都志春 作曲
- ◎「どれみで あいさつ」 長谷部匡俊 作曲
- 「なかよし」 海野洋司 作詞 / 佐井孝彰 作曲
- 「どんぐりさんの おうち」 市川都志春 作曲

6 [共通事項] について

(1) 本題材で主に扱う [共通事項]

ア 音色 旋律 拍の流れ 問いと答え

(2) [共通事項] と学習活動のかかわり

共通事項 ア (ア)	音色	旋律	拍の流れ
(イ)		問いと答え	
主な 学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカに親しみ、音色に気を付けて演奏する。 ・音の高低を感じ取りながら階名で模唱したり暗唱したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の範唱や範奏を聴く。 ・階名で模唱したり暗唱したりする。 ・教師の旋律をまねて、演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラベスで拍打ちを感じ取り、拍の流れのって演奏する。

7 題材の評価規準・評価計画（10時間扱い）

（1）評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①鍵盤ハーモニカの音色や演奏に興味・関心をもち、音の出し方に気を付けて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。 ②鍵盤ハーモニカに親しみ、音色に気を付けて簡単な旋律を演奏する学習に進んで取り組もうとしている。 ③音の高低を感じ取りながら階名で模唱したり暗唱したりする学習に進んで取り組もうとしている。 ④範唱を聴き、ド～ソの音を使って模奏したり模唱したりする学習に進んで取り組もうとしている。	①音の高低や長短を聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取って、音の出し方を工夫している。 ②音色や旋律を聴き取り、音の高低を感じ取りながら音の出し方を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いをもっている。	①鍵盤の位置を覚え、音色に気を付けて鍵盤ハーモニカを演奏している。 ②運指や音色に気を付けて、鍵盤ハーモニカを演奏している。 ③音の高さの違いに気を付けて、階名で模唱したり暗唱したりしている。	①演奏の仕方や音色が生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音色と旋律のかかり合いに気を付けて聴いている。

（2）題材における学習評価計画（★が本時）

時	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
1・2	①	①		①
3			①	
4★・5	②		②	
6・7・8	③	②		
9・10	④		③	

8 指導と評価の計画（10時間扱い）

時	○学習内容 ・主な学習活動 ◎教材	・指導上の留意点 評価方法【 】
1	○場面や様子を想像しながら、鍵盤ハーモニカの音色のよさに気付いて聴く。 ◎みつばちの ぼうけん ・曲名や楽曲の気分の変化から、蜜蜂の様子や場面を想像しながら聴く。	・楽器の音色や表情の変化などが生み出す楽曲の気分を感じ取って、様子を思い浮かべたりお話を想像したりしながら聴くように伝える。 ①関心・意欲・態度【表情観察・発言内容】 ①鑑賞の能力【表情観察・発言内容】
2	○音の高低や長短を工夫して、いろいろな音を吹く。 ◎たのしく ふこう ・歌に続けて＜いろいろな音を出す＞の部分で自由に音を出す。	・＜いろいろな音を出す＞の部分一人ずつ発表するようにし、全員が鍵盤ハーモニカを吹けたという達成感を味わえるようにする。 ①音楽表現の創意工夫【演奏観察】
3	○音の出し方に気を付けて、鍵盤ハーモニカの演奏の仕方に	

	<p>親しむ。</p> <p>◎どんぐりさんの おうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍打ちに合わせてドとソの音を吹く。 <p>○息の強さに気を付けて、鍵盤ハーモニカを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱に合わせて、鍵盤ハーモニカの部分を演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ高さの音を3回吹くときは、音の長さや大きさがばらばらになってしまうことが多い。息の強さや勢いに気を付けて吹くように助言する。 ・拍の流れを感じ取って、音色に気を付けて演奏するように助言する。 <p>①音楽表現の技能【演奏聴取】</p>
4	<p>○音の高さの違いを感じ取りながら、鍵盤ハーモニカのド、レ、ミの位置を覚える。</p> <p>◎どれみで あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱と範奏を聴いて曲全体の感じをつかみ、階名で模唱したり暗唱したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドレミで挨拶したり、お話ししたりしている感じがすることに気付くように助言する。 ・指番号を伝え、教科書の鍵盤の写真に1～3の指を置いて指を動かしながら確認できるようにする。 <p>②関心・意欲・態度【行動観察】</p> <p>②音楽表現の技能【演奏聴取】</p>
5	<p>○運指や音色に気を付けて、鍵盤ハーモニカを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階名唱したり鍵盤ハーモニカで演奏したりする。 <p>○音色に気を付けて「どれみのまねっこ」遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者から遊び方の説明を聞き、「まねっこ」遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音で挨拶をするように、音色に気を付けて演奏するように助言する。 ・階名による範唱→階名模唱、指番号による範唱→模唱しながら指を動かす、階名による範唱→鍵盤ハーモニカによる模奏というように段階を踏んで丁寧に指導する。 <p>②音楽表現の技能【演奏聴取】</p>
6	<p>○音の高さの変化を感じ取って、旋律を階名唱する。</p> <p>◎なかよし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱や範奏を聴いて旋律の感じをつかみ、階名で模唱したり暗唱したりする。 <p>○鍵盤ハーモニカのファとソの位置を覚える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運指に気を付けて、演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスを二つに分けたり、列で区切ったりして、グループごとに何回も繰り返し歌うようにする。 ・階名や指番号で範唱して、子供たちが鍵盤の位置と指番号を対応させられるようにする。 <p>③関心・意欲・態度【演奏観察】</p>
7	<p>○歌の組と鍵盤ハーモニカの組に分かれて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌の組と鍵盤ハーモニカの組に分かれて、音の出し方を工夫して演奏する。 <p>○音色に気を付けて「どれみふあそ のまねっこ」遊びをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・優しい音色で演奏するために、息の強さに気を付けるように助言する。 <p>②音楽表現の創意工夫【演奏聴取】</p>

8	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱に続けて全員で模奏したり、一人ずつ順番に模奏したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時間少しずつ時間をとって常時活動にすると、定着しやすい。 <p>③ 関心・意欲・態度【行動観察・演奏観察】</p>
9	<p>○ 音の高さの違いに気を付けて階名唱する。</p> <p>◎ どんぐりさんのおうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴いて階名唱する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の風船の挿絵のような音の高低が分かる掲示物を使い、階名を指さしながら歌うようにする。 <p>④ 関心・意欲・態度【演奏観察】</p>
10	<p>○ 音の高さの違いを意識して「どれみのまねっこ」遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手の位置を変えて音の高さを感じ取りながら模唱する。 	

9 人権教育上のねらい（普遍的な課題「コミュニケーション能力」）

互いの演奏を聴き、認め合ったり教え合ったりして、意見や気持ちを適切に伝え合い分かり合えるようにする。

10 人権教育上の視点

- (1) 友達との学び合いや対話を大切にし、協力しようとする態度を育てる。（価値・態度）
- (2) 自分の意見を相手に伝えることができる。（技能）

11 指導と評価の計画

(1) 本時の目標

鍵盤ハーモニカに親しみ、簡単な旋律を演奏する学習に進んで取り組もうとしている。（関心・意欲・態度）

鍵盤の位置や運指を覚えて、鍵盤ハーモニカを演奏している。（技能）

(2) 本時で主に扱う【共通事項】：音色

(3) 展開（4/10時）

◎人権教育上の配慮

学習活動（○）学習（・）	指導上の留意点（○）評価規準（☆）
<p>1 ○常時活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ゆかいに歩けば」を音楽に合わせて体を動かす。 ・ 今月の歌「ゴーゴーゴー」を歌う。 ・ タンギング演奏 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 姿勢、声の出し方、表情など基本的な事項をひとつひとつ確認しながら進める。 ○ 音楽の授業の雰囲気作りをする。 ○ 姿勢、構え方の確認をする。 ○ 本時の活動につなげられるように、息の強さに気を付けて演奏させる。
<p>2 ○既習曲「どんぐりさんのおうち」を歌ったり演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアで歌と演奏に分かれる。 ・ 姿勢、構え方、音色に気を付けて演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ペアで姿勢や構え方を確認させて、音色を聴かせる。 ○ 確認できたペアは、○の合図をさせる。 ○ 演奏後、音色の感想を伝えさせる。
<p>3 ○学習のめあて、活動を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあてを知る。 ・ 「どれみで あいさつ」の範 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>どれみの いちを おぼえてふこう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の範唱と範奏を行う。

<p>唱と範奏を聴く。</p> <p>4○「どれみで あいさつ」を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階名唱をする。 ・どれみの位置を知る。 ・指番号を知る。 ・ド=どんぐりさんおうちに1の指を構える。 ・1小節ずつ音と運指練習をする。 ・4小節通して、演奏をする。 <p>5○ペアで教え合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌いながら、友だちの音と運指を確認する人・演奏する人に分かれて行う。 ・友だちの音色を聴く人、演奏する人に分かれて行う。 <p>6○一斉に演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の拍打ちを感じて、友達と演奏を合わせる。 <p>7○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○次時の予告を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指を指しながら、聴くように伝える。 ○初めは、指を指しながら階名唱をさせる。 ○児童が慣れてきたら、暗唱や休符を意識させて取り組ませる。 <p>○3音の位置や指の番号を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指を動かしながら階名→指番号を声に出して、繰り返し練習をしてから鍵盤で演奏させる。 ○速度を考えて、練習を進める。 ○休符を意識できるように、拍打ちをする。 <p>☆関鍵盤ハーモニカに親しみ、簡単な旋律を演奏する学習に進んで取り組もうとしている。【行動観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音と運指が正しかったら褒め、間違えがあったら教え合ったりアドバイスしたりするように声をかける。 ◎教師が声のかけ方の悪い例を示し、友達と仲よく活動が進められるようにする。(価値・態度) ○耳を傾けて音色を聴き、目で息の入れ方を見るように伝える。 ◎相手に意見を伝えられるように、例の言葉を示す。今まで学習してきた息の入れ方を振り返らせる。(技能) <ul style="list-style-type: none"> ○クラベスで拍打ちをし、休符を意識させる。 ○ペア学習(学び合い)をして、お友だちに声をかけたことかけられたことが一人一人の上達につながったことを話す。 <p>☆技鍵盤の位置や運指を覚えて、鍵盤ハーモニカを演奏している。【行動観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○分かったこと、できたことを記入させる。 ○ドレミをつかって「まねっこ遊び」をすることを伝える。
--	---

12 板書計画

どれみで あいさつ	① どれみの いちを おぼえてふこう	
<p>拡大楽譜</p>	<p>3つのおと</p> <p>ど→1</p> <p>れ→2</p> <p>み→3</p>	<p>いきのいれかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルルル～ ・トゥトゥトゥー ・ろうそくの火がゆれる○ やさしく○ ・ろうそくの火をけす × らんぼう×